



平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会
第56回全国高等学校登山大会
大会報告書



君は今希望とともに：緑の大地を駆けぬける

平成24年8月7日（火）～8月11日（土）

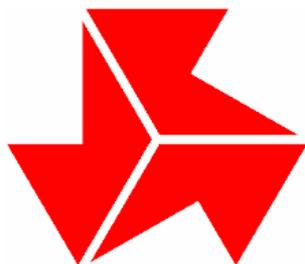
苗場山コース・平標山コース・三国峠コース

苗場プリンスホテル特設幕営地

- 主催 (公財)全国高等学校体育連盟 (社)日本山岳協会
新潟県 新潟県教育委員会 湯沢町 湯沢町教育委員会 毎日新聞社
- 後援 文部科学省 (公財)日本体育協会 日本放送協会
(公財)新潟県体育協会 湯沢町体育協会
- 主管 (公財)全国高等学校体育連盟登山専門部
新潟県高等学校体育連盟 新潟県山岳協会
- 特別協賛 コカ・コーラ
- 協賛 NTTドコモ 日本郵政グループ JR東日本 富士通

平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会 湯沢町実行委員会

高体連マーク



このマークは、若人の力と技と明朗な精神を象徴するものである。マークを構成している3つの「K」は、次のドイツ語の頭文字をとったもので、若人の情熱を示す紅色によって浮き出され、高体連のシンボルマークとされている。

K R A F T	K U N S T	K L A R H E I T
力	技	明朗な精神

大会愛称

2012 北信越かがやき総体

参加する選手それぞれに、輝きを持って頑張してほしいという気持ちが込められています。

作 者 桑野 花菜（新潟県立新潟江南高等学校）

大会スローガン



「緑の大地」は、北信越が自然豊かで美しいということです。この美しい土地で、選手みなさんに楽しんでもらいたいという願いからつけました。

作 者 志賀 由梨（新潟市立赤塚中学校）
揮 毫 春山 桃子（新潟県立新潟南高等学校）

シンボルマーク



勝利に向かって全力を出す選手と、力強く羽ばたく朱鷺をイメージして作りました。今大会会場5つの県を表し、ピンク色は新潟県、オレンジ色は富山県、黄色は石川県、緑色は福井県、青色は長野県になっています。また奥の翼は、選手のスポーツマンシップをイメージした深い群青にしました。選手と朱鷺が5つの県の架け橋となり、素晴らしい大会になることを願っています。

作 者 太智花 美咲（石川県立金沢辰巳丘高等学校）

総合ポスター図案



人物は高い目標や夢に向かって全力で飛んでいく様子を。足元の水しぶきは努力の涙と汗をイメージ。バックの夕焼けは遅くまで頑張ってきたことと、赤く燃える闘志を表現しています。

作 者 古川 響子（石川県立羽咋工業高等学校）

（学校名は応募当時）

目 次

高体連マーク・シンボルマーク・大会愛称・大会スローガン

あいさつ	(公財) 全国高等学校体育連盟登山専門部長	梶本 修	1
	湯沢町実行委員会 会長	上村 清隆	2
	新潟県高等学校体育連盟 会長	茂木 暢雄	3
	新潟県山岳協会 理事長	遠藤 俊一	4
	新潟県高等学校体育連盟登山専門部 委員長	笛木 勉	5

◆大会記録

1. 審査員長講評	審査員長	岩澤 健二	7
成績発表			9
項目別講評と審査報告			10
模範天気図と解析予報			21
気象知識テスト 解答			22
救急知識テスト 解答			24
自然観察テスト 解答			25
2. 成績一覧表			27
3. 日程及びコース			29
4. 登山コース位置図および概念図			30
5. 都道府県別出場校一覧			32
6. 役員等人員表			33
	・コース隊総人数、行動隊役員数、設営隊役員数		
	・競技役員および補助員数		
	・運営役員および補助員数		
7. A隊行動記録表および行動記録	A隊コース隊長	笛木 勉	36
8. B隊行動記録表および行動記録	B隊コース隊長	新保 雅稔	42
9. A隊支援隊記録	A隊支援隊長	中野 忠雄	47
10. B隊支援隊記録	B隊支援隊長	笛木 一弘	49
11. 設営隊記録	設営隊長	真島 徳衛	51
12. 気象記録	総務気象担当	三谷 忠生	60
13. 通信記録	総務通信記録	吉田 光二	62
14. 救護記録	設営隊救護担当	石田 信康	64
15. 式典記録	運営総務委員長	牧口 義弘	66
	運営副総務委員長	渡邊 仁	

16. 総務記録	総務委員長	眞島 智宣	69
17. 準備経過概要	総務委員長	眞島 智宣	73

◆大会感想文

1. A隊班編成、大会感想文			76
2. B隊班編成、大会感想文			106
登山大会を終えて	登山隊長	中村 稔彦	132

あいさつ



(公財) 全国高等学校体育連盟
登山専門部長 梶本 修

「君は今 希望とともに緑の大地をかけぬける」のスローガンのもと、平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会・第56回全国高等学校登山大会は、関係者の皆様のご尽力により選手諸君はもとより、参加されたすべての皆様方に多くの感動を与え、無事成功裏に終えることができました。

これもひとえに、今大会の開催に当たり、格別のご支援をいただきました新潟県当局、並びに会場地として早期からご尽力、ご協力を賜りました地元湯沢町の実行委員会、新潟県山岳協会、並びに高体連登山専門部の皆様方のおかげであり、改めて心からの感謝と深い敬意を表したいと思えます。

猛暑による熱中症等が心配された登山大会でありましたが、幸い大きな病気や怪我もなく、また、台風や雷雨に見舞われることもなく全日程を予定通り実施できたことを、共に喜びたいと思えます。事前の綿密な計画の下に、アクシデントへの緊急対応や事後対応を練り上げるとともに、関係者の皆様が一致協力して運営に当たったことは、今後の大会にも大いに役立つことと思えます。

今回の大会コースは、日本百名山であり高層湿地帯が発達する「苗場山」、花の百名山に選ばれるほど高山植物が豊富な「平標山」、古くからの交通の要所であった「三国峠」を含む山域を中心に設定されました。選手の皆さんは、豊かな自然を十分に満喫するとともに、歴史の一端にも触れることができたのではないのでしょうか。青春のこの思い出を忘れることなく、何年か後には、登山コースや季節を変えて、再度湯沢の地を訪問されることを期待します。また違った感動に出会えることと思えます。

登山の形態は多様です。今大会はその中の一つにすぎません。共通点は安全な登山に必要な体力や技術を身に付け、最悪をも想定して登山することです。生徒の皆さんには、普段からの地道なトレーニングを積み重ねるとともに、自分が目指す登山を追求して行って欲しいと願います。

終わりに、この大会に参加された皆さんが、山で得た貴重な体験や感動を深く胸に刻み、これからの人生の糧にさせていただくことを祈念いたします。

大会を終えて



平成 24 年度全国高等学校総合体育大会
湯 沢 町 実 行 委 員 会 会 長
湯 沢 町 長 上 村 清 隆

「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」をスローガンに開催された平成 24 年度全国高等学校総合体育大会(2012 北信越かがやき総体)登山大会・第 56 回全国高等学校登山大会。選手の皆さんは、各県の代表として全力で競技に臨むことができたでしょうか。悔いの残らない大会となったでしょうか。そして、この大会を通して出会った仲間たちと交流を深めることができたでしょうか。

私たち湯沢町実行委員会では、約 2 年前から準備を始め、霧島大会、青森大会などの先催県への視察を踏まえて、よりよい大会となるよう全力で準備を進めて参りました。それは、ひとえに選手の皆さんから「希望とともに」「緑の大地をかけぬけ」てもらうために進めてきたものです。皆さんがこの大会で経験したことすべてが思い出となったことと思います。そしてこの経験は、単に青春の思い出の一コマということだけでなく、これからの皆さんの人生にとって、大きな「自信」につながるものと信じております。

ここ湯沢町は、冬のスキーは勿論のこと、山、温泉、フィッシング、キャンプなど四季を通じて楽しめる町です。皆さんには、またいつの日か再び、この湯沢の地に訪れて欲しいと願っております。

また、湯沢町に隣接する南魚沼市の高校生や新潟県内の登山部の生徒が「北信越 UNION～絆～」活動に積極的に取り組み、見えないところで、本大会の成功に貢献いただきましたことに改めて感謝申し上げます。本大会に参加された次代を担う高校生が登山活動や互いの交流を通じて、豊かで健全なる成長をとげられることを願っております。

最後に、本大会の開催にあたり多大なるご支援とご協力を賜りましたすべての皆様に、改めて感謝を申し上げますとともに、皆様のますますのご活躍と、高校生のみなさんの今後の飛躍を心より祈念申し上げ、実行委員会の挨拶とさせていただきます。



あいさつ

新潟県高等学校体育連盟
会長 茂木 暢 雄

平成24年度全国高等学校総合体育大会「2012 北信越かがやき総体」は、「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」をスローガンに、富山、石川、福井、長野、新潟の北信越5県で実施され、本県では総合開会式と13競技が開催されました。

本大会は、皇太子殿下の御臨席のもと、7月28日朱鷺メッセを会場に行われた総合開会式で幕を開けました。各競技会では、県予選あるいはブロック予選を勝ち抜いた全国の精鋭達が北信越の地に集い、高校日本一を目指して熱戦を繰り広げるとともに、高校生らしいさわやかではつらつとしたプレーを見せてくれました。

8月20日の水泳競技の閉会式で全日程を無事終了することができましたが、全国高等学校体育連盟・毎日新聞社・新潟県並びに会場地市町村実行委員会をはじめ御支援いただきました関係諸団体の皆様に心から御礼申し上げます。

本大会はブロック開催として、昨年度開催の北東北総体に次いで2回目の開催となりました。大会の成功には、北信越5県の連携が必要不可欠であるため、早くから5県連絡協議会などの会議を重ね互いに力を合わせて準備に努めてきました。

選手が最高の舞台で思う存分競技し、「新潟でインターハイができてよかった」と思えるような大会を目指して準備を進めてきましたが、その中で高校生活動執行部を中心に、県内の高校生一人一人が大会を支える大きな力となりました。競技会場を訪れた人たちは、その献身的な姿に感銘を受けたことと思いますし、私自身大会の裏方ともいえる仕事に一生懸命努める生徒の姿を目にし、全国高校総体開催の意義を改めて実感しました。

また、選手は、本大会を通じて人と人との絆の大切さを改めて実感し、大会に携わった全ての人に支えられているという感謝の気持ちを持って大会に臨むことができたのではないのでしょうか。そして、その選手の若さ溢れる活躍は、私たちに勇気、元気を与え、将来の高校生アスリートを夢見る小中学生に深い感動を与えてくれたに違いありません。

終わりに、御尽力された多くの関係者に重ねて御礼申し上げますとともに、全国高等学校総合体育大会のますますの発展を祈念し、あいさつといたします。

登山大会を終えて



新潟県山岳協会
理事長 遠藤 俊一

平成24年度全国高等学校総合体育大会登山大会・第56回全国高等学校登山大会が、平成24年8月7日から11日までの間、新潟県を代表する苗場山・平標山、三国峠を中心とした山域で開催され、滞りなく終了しましたことは、喜ばしい限りであります。ここに至るまでには、大会関係者の皆様の並々ならぬご尽力があったものと、大会に携わられた多くの方々に感謝申し上げる次第でございます。

全国の高校生の皆様約350名から、新潟県の山々を体験していただきました。これからの時代を担う高校生の皆様から、新潟県の山々を経験していただいたことを新潟県山岳協会として、大変うれしく思っております。また、皆様が夜もまだ明けやらぬ早朝から、就寝まで一生懸命に活動している姿は、見事なものでした。競技ですので、いろいろなところで採点され、順位が付けられてしまいますが、順位よりも、こうした機会を生かして、登山の基礎をしっかりと身につけていただければ幸いです。

新潟県の山々は、北アルプスのような岩稜鋭い3000m級の高山が連なっている山々とは一味違った池糖や草原の広がる伸びやかな山が多いのが特徴です。また、新潟県境に連なる山々は、冬の気象に大きく影響を及ぼし、日本海側の多雪と太平洋側の晴天をもたらしています。登山は、ただ単純に山を登るだけでなく、こうした自然現象を考察したり、山の成り立ち、山麓の人たちの山との関わり等を調べることも楽しみの一つです。今回の登山大会と機として、ここ新潟の苗場山や平標山と皆さんの地元の山々と比較してみるのも面白いのではないのでしょうか。

今回、登山された山々をはじめ、新潟県には他にも、妙高連山、越後三山、飯豊連峰等自然豊かな山々が多くあります。このたびの夏のお花畑に限らず、春の木々の芽吹き、秋の紅葉、冬の雪と四季折々の素晴らしい自然に恵まれています。是非、新潟県の山々に、またお出掛け下さい。

2012 北信越かがやき総体登山大会を終えて



新潟県高等学校体育連盟登山専門部
委員長 笛木 勉

「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」の大会スローガンのもと、8月7日から5日間にわたり行われた、平成24年度全国高等学校総合体育大会(2012北信越かがやき総体)登山大会・第56回全国高等学校登山大会を、関係の皆様の絶大な御支援と御協力により、滞りなく終了することができました。

今大会の開催地となりました湯沢町は、古い歴史や文化に触れながら四季折々に風光明媚で豊かな自然を堪能することができる地域であり、多くの県民や県内外の登山愛好者から親しまれております。

大会では、日本百名山のひとつとして名高い苗場山、花の百名山に数えられる平標山、古くから越後と江戸を結ぶ要衝の地である三国峠の3コースが舞台となりました。それぞれ違った山の醍醐味を味わうことのできるまさに全国に誇れる郷土の山があります。大会開催に当たりましては、湯沢町をはじめとする多くの皆様の御協力をいただきコース整備を入念に行い、全国からの選手、監督、役員の皆様をお迎えすることができました。幸い天候に恵まれほとんどのパーティが全コースを踏破し、無事に大会を終了することができました。参加各校の万全な対応と精進に敬意を表するとともに、新潟県登山専門部としても安堵しております。

これもひとえに、新潟県実行委員会をはじめ、湯沢町実行委員会、(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部、(社)日本山岳協会、新潟県山岳協会の御指導・御支援並びに関係機関・団体、そして役員の皆様の御協力のたまものと深く感謝申し上げます。また、会場の高校生が「北信越 UNION～絆～」活動に積極的に取り組み本大会の成功に貢献いただきましたことに改めて感謝申し上げます。

本大会に参加された次代を担う高校生が登山活動や互いの交流を通じて、豊かで健全なる成長をとげられることを願っております。

終わりに、本県においていただきました各都道府県の選手・監督・役員の皆様のますますの御健勝を祈念いたしますとともに、本大会の開催に御尽力を賜りました皆様に重ねて感謝を申し上げまして、お礼のあいさついたします。

大会記録



1 審査員長講評

審査委員長 岩 澤 健 二

岩手県立平舘高等学校

選手、監督、役員、補助員の皆さん、4日間にわたる登山行動、大変お疲れさまでした。今大会の山域は、上信越高原国立公園に属し日本百名山の「苗場山」、花の百名山に選ばれるほど高山植物が豊富な「平標山」、そして、古くから越後と江戸を結ぶ交通の要所であった「三国峠」を含むコースで行われました。

大会では、各コースでチームの体力・技量に合わせ、登山行動を満喫したことと思います。また、深い山、美しい川と豊かな自然が、皆さんの心を和ませてくれたことと思います。

登山行動中は、真夏の太陽が輝き、爽やかな風を受けながら、山の変化を肌で感じたことと思います。隊離脱、行動離脱、棄権が数チームありましたが、3日間のコースをすべてトレースすることができました。本当にご苦労さまでした。

「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」のスローガンのもと、大会を支えてくださった新潟県、湯沢町実行委員会の皆様、新潟県山岳協会、新潟県高体連、そして、「北信越UNION～絆～」を旗印に一人一役活動を展開してくださった地元高校生の皆さん、大変ありがとうございました。大会の成功を皆様と共に喜びたいと思います。

次に、皆さんと共に行動し、審査に当たった審査員の先生方の報告をもとに、いくつかの項目について大会の講評をいたします。

体力・歩行面では全般的によく訓練されており、アップダウンの多いコースにもかかわらず粘り強い隊行動ができました。これは、選手の皆さんの頑張りはもちろんですが、普段の山行と日々の練習の成果の賜物であります。このことを高く評価したいと思います。しかしながら、登山行動中、隊離脱、行動離脱、棄権あるいは限界に近い状態で登山行動を続けたチームが少なからずあったことも事実です。登山は私たちを成長させ、生きる力を育むスポーツですが、大きな危険を伴うものでもあります。したがって、普段の登山活動・トレーニング・学習と研究等、これらによって、登山における体力・自己防衛力を身に付けることが必要です。環境等への順応力も、日常のトレーニングによって培われるものなのです。地道ですが計画的なトレーニングを継続してください。「継続は力なり！」です。

装備について概ね良好でしたが、必要な装備を携行することが安全登山につながります。しかし装備の軽量化を図るあまり、審査の条件を満たしていればよいという発想のチームも多少見られました。なぜその装備が必要なのかもう一度よく考え直してください。用具を使いこなすこと、管理、手入れを十分に行うことが重要です。装備は、自分自身、メンバーの命を守るものです。

天気図に関しては、中には模範解答として採用できる素晴らしい天気図もありました。よく書けているチームと練習が足りないチームとの差が大きかったです。部報「地上天気図の書き方」で基礎基本を身に付けもっと天気図を書き込んでください。

炊事については、各チームとも創意工夫を凝らし、バラエティに富んだメニューが多くあり良好でした。食事は、登山活動のエネルギーの源です。さらに研究を深めてください。

態度・マナーについては、幕営地での起床前及び消灯後の様子、テント内外の整理について見させていただきましたが概ね良好でした。ただし、行動食を捨てる残念な行為がありました。ルールを守るとは我々が社会生活を営む上での基礎・基本です。今後とも決められたルールを守るようにしてください。

登山大会の審査は、監督・リーダー会議の時にもお話いたしました、「審査基準と指導目標」、「確認事例集」、「斑離脱・隊離脱・行動離脱・棄権についての整理・確認」に基づいて行っています。登山大会の出場はもちろん、登山活動、日常の生活をするためのチャート（指針）になると思います。この素晴らしい参考書を活用し、今後も登山の幅広い知識を習得してください。また、後輩にも伝授してください。

おわりに、現在行われているロンドンオリンピック体操競技で金メダルをとった内村選手、競泳平泳ぎ100m、200mで前人未踏の三冠を目指した北島選手が、常日頃自分に言い聞かせているのは、「自分の限界を決め付けない」ということ。何事を成し遂げるのにも、「あきらめない」ことが重要。できないと思ってあきらめた時点で、可能性がゼロになる。これでは、自分で自分の可能性を閉じてし

まっているということになる。あきらめなければ、わずかでも可能性は残されている。あとは努力とタイミングさえ合えば、その可能性が実現になることも夢ではない・・・「自分の限界に挑戦し、自分の可能性を信じる」ことが大切であるというよことを話をしていました。私達も「自分の限界に挑戦し、自分の可能性を信じる」ことを心の糧として、これからの日常生活、山登りに活かしていきましょう。

後程、成績を発表させていただきます。入賞したチームの皆さん本当におめでとうございます。また、ベストを尽くしたものの、入賞を逃した皆さん、4日間の登山行動を無事に終えたことに誇りを持ってください。皆さんに、光輝く心の金メダルを贈りたいと思います。このような機会を与えてくれた顧問の先生方、家族、友人、地元の方々、大会関係者に対する謙虚な感謝の気持ちを忘れずに相手に伝えてください。さらに、この貴重な経験・感動を地元を持ち帰り、大会スローガン「君は今 希望とともに 緑の大地をかけぬける」のとおり、多くの人に夢と希望を与え、21世紀を担う若者として活躍されることを期待しております。

I 成績発表

(1) 団体男子 (A隊)

順位	都道府県名	学校名	点数 (100点)
優勝	新潟県	新潟県中央工業高等学校	99.5
第2位	広島県	修道高等学校	99.3
第3位	山口県	下松工業高等学校	98.1
第4位	長崎県	長崎北陽台高等学校	97.9
第5位	徳島県	城ノ内高等学校	97.3
第6位	宮城県	白石高等学校	97.1

(2) 団体女子 (B隊)

順位	都道府県名	学校名	点数 (100点)
優勝	山口県	防府高等学校	97.1
第2位	静岡県	富士宮西高等学校	97.0
第3位	群馬県	高崎女子高等学校	96.6
第4位	岡山県	就実高等学校	95.6
第5位	徳島県	城ノ内高等学校	95.4
第6位	千葉県	幕張総合高等学校	94.8

(3) 審査員一覧

審査員長	岩澤 健二	岩手県	平館高等学校
副審査員長	田中 健一	京都府	乙訓高等学校
A隊審査員	岡田 康洋	茨城県	水戸葵陵高等学校
〃	中條 伸義	北海道	札幌南高等学校
〃	久根 敏	長野県	高遠高等学校
〃	岩狭 満	愛知県	一宮工業高等学校
〃	原田 貴義	熊本県	熊本第一高等学校
〃	松本 将史	新潟県	海洋高等学校
〃	中井 敬寛	福井県	勝山高等学校
〃	塩川 淳男	長野県	木曾青峰高等学校
B隊審査	三木野 博之	徳島県	徳島市立高等学校
〃	伊東 朋幸	宮城県	宮城第一高等学校
〃	沼野 正博	和歌山県	田辺高等学校
〃	舟木 司	島根県	松江北高等学校
〃	草住 公一	新潟県	海洋高等学校
〃	八幡 久康	富山県	魚津工業高等学校
〃	根石 修	石川県	翠星高等学校
〃	松原 弘和	福井県	勝山高等学校
中央総務審査対応	小林 達也	群馬県	沼田高等学校
	福永 輝彦	広島県	五日市高等学校
	谷口 浩平	神奈川県	藤沢翔陵高等学校
	新田 亮一	岩手県	岩手高等学校

II 項目別講評と審査報告

以下の1～10の項目について「審査基準と指導目標」および「審査確認事例」に従って審査しました。

また、今回はそれぞれの項目について昨年同様どのように対応し実践するとよいか【One Point Advice】を載せておきましたので参考にいただければ幸いです。

1 体力(30点)

体力審査に関しては、男女共、3日間、苗場山、平標山、三国峠コースを各10点ずつで体力審査の観点に基づいて審査しました。特に苗場山コースでの祓川駐車場から高速リフト降り場までのチーム行動については事前に説明させていただいたように、タイム、到着順番は全く関係ありません。すべて、体力審査の観点に基づいて1日をトータルに考え審査し点数をつけています。今後も、チーム行動については同様です。また、チーム行動についてはそれぞれのチームの力量にあったペース配分で行動ができ良かったと思います。体力面では全般的によく訓練されており、アップダウンの多いコースにもかかわらず粘り強い隊行動ができました。しかしながら、登山行動中、隊離脱、行動離脱、棄権あるいは限界に近い状態で登山行動を続けたチームが少なからずあったことも事実です。

体力は日常の継続的なトレーニングや山行で培うことができることはいまでもありませんが、長期間の山中生活で体調を崩さず力が出せるよう睡眠や水分・栄養補給にも十分気を配ることも大切です。

【One Point Advice】

- (1) 審査内容について審査の観点をしっかり理解しておくことが有効です。
- (2) 体力を付けるために→ランニング、階段での負荷を掛けての訓練等が有効です。
- (3) 実際に山行を積み重ねて、体力をつけることも有効です。

【審査内容】

各コース運営に支障のない範囲で各隊8人の審査員で多くの個所で定点観察し以下の観点で審査し、男女それぞれチームを4つのA～Dの班に分け、その班の中でさらに順番をつけ点数をつけています。

なお、班離脱、隊離脱、行動離脱、棄権については、コース隊長、登山隊長からの報告により確認し、審査員、中央総務審査対応による再確認もしました。

審査の観点	
1 持久力・スタミナ	持久力・スタミナ
2 リズム・スピード・バランス	リズム・スピード・バランスの良し悪し
3 間隔	(チーム内の) 間隔が2～3m以上開く (チーム間の) 間隔が4～5m以上開く

2 歩行技術(10点)

急登の登り、粘土質の滑りやすい下りの状況に応じた歩き方ができていないチームがありました。また、苗場山コースの田代分岐からの下りでは、足運びがおぼつかなくなったりスリップをするなど、山慣れしていないパーティーが多く見受けられました。さらに、段差の大きいところで飛び降りるチームも見られました。危険の無い舗装道路上でも手袋をして歩いているチームが多く見られました。状況を考え歩行する力も養ってください。他のコースに関しては概ね良好でした。日常のトレーニングや山行の成果が現れていました。今後も、継続し努力してください。

【One Point Advice】

- (1) いろいろな気象、コース条件等を想定して負荷を掛けての歩行訓練等が有効です。
- (2) 歩行の力を付けるために→階段での負荷を掛けて、坂道での負荷を掛けて、斜面を使って負荷を掛けての歩行訓練等が有効です。
- (3) 歩行技術は体力の有無にも関係しています。体力もしっかりつけてください。

【審査内容】

各コース運営に支障のない範囲で各隊8人の審査員で多くの個所で定点観察し以下の観点で審査し、男女それぞれチームを4つのA～Dの班に分け、その班の中でさらに順番をつけ点数をつけています。

審査の観点	
1 点等する 転倒	10 地図を見ながら歩行（通常所持）
2 しりもちをつく	11 歩きながら記録を取る（危険排除）
3 スリップする	12 地図のぶら下げ（危険排除）
4 バランスを崩す	13 ハイドレーションのチューブの固定
5 手をつく	14 落石の有無
6 走る	15 必要に応じての服装
7 通過にもたつく	16 軍手の着用
8 パッキングが悪い	17 安全に対する配慮
9 靴紐の処置	

3 装備審査（10点）

幕営地、サブザック行動時に個人装備、共同装備等を審査しましたが概ね良好でした。必要な装備を携行することが安全登山につながります。もう一度よくなぜその装備が必要なのか考えてください。用具を使いこなすこと、管理、手入れを十分に行うことです。また、緊急時に必要なものをすぐに出せるパッキングも必要です。このようなことが、自分自身、メンバーの命を守ることにつながります。

【審査内容】

（1） 装備（1点×8品目）

<個人> ※個人装備は、4人全員が所持していないと減点1点

A 隊	時計、細引き、計画書（防水）、コンパス
B 隊	時計、ヘッドランプ（防水・絶縁・予備電池）、携帯トイレ、笛

<共同>

A 隊	ツェルト、ラジオ（絶縁）、裁縫道具（針と糸）、予備食（1食4人分）
B 隊	ツェルト、ラジオ（絶縁）、裁縫道具（針と糸）、予備食（1食4人分）

【One Point Advice】

装備品を携行するために→装備に関しては審査基準と指導目標、Ⅱ生活技術 3 装備の表に共同携行品、個人携行品に別れて記載があるので確認をしてください。また、防水する携行品、サブザック時の携行品も詳しく明示されているので再度確認をしてください。さらに、確認事例集に詳しく明示されているのでこれもきちんと熟読してください。併せて過去5年位の報告書、部報からどのような項目を審査しているか調べて見るのもひとつの参考になると思います。

（2） 服装等（2点）

雨具・帽子等の記名、首へのぶら下げ・タオルを出している、シャツの裾出し等について審査しました。

※歩行、装備審査で上記項目を審査した場合は、重複しないようにしました。

【One Point Advice】

「審査基準」「確認事例集」を熟読し、上記にあることを守っていれば減点はありません。

4 設営・撤収（10点）

全体的に手際良くしっかり設営・撤収できるように練習を積んでいるチームが多かったです。ただし、張り綱を強く張りすぎていてファスナーに負担がかかり過ぎているテント、破損したテント、張り綱が地面にめり込むチームも見受けられました。もう一度、審査確認事例の観点をよく理解してください。テントは山で生活し、明日への山行への英気を養うスペースです。快適な空間（場所）にするにはど

うしたらよいか心がけ、大切に使用してください。

【審査内容】

設営時間は10分（最初から軍手をしないで、ザックの蓋を閉めた状態から始めて、ザックをテントに収納して出入り口を閉めるまで）とし、以下の観点で審査しました。

審査の観点	
※設営時	※完成時
1 チームワークのよさ	1 ペグ本数不足
2 手際のよさ	2 ペグ打ち込みすぎ
3 ポールの状態（地面に放置）	3 ペグ打ち込み不足
4 テントの扱い方（土足、踏むなど）	4 ペグ位置違い
5 袋・物等の散乱状態	5 張り綱無し
6 ペグ打ち手の手袋なし	6 張り綱の適切な処理
7 ザックの散乱状況	7 ザックのテント内へ未収納
8 ザックの雨蓋の処理	8 テント内の整理整頓
9 監督の指示有り	9 入口のチャックの状態
	10 ハンマーの未収納
	11 本体とフライの接合等

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅡ生活技術「設営・撤収」と「確認事例集」4設営・撤収を熟読してください。その後、チーム内で審査員を2～4名位設け10分間で設営し、「審査基準と指導目標」と「確認事例集」に従って審査を実施してください。また、最近の大会は芝生地、グラウンド等を使用することが多いのでそのことも意識して、同じ芝生地、グラウンドでも場所を変えて練習することも有効な手段です。さらに、ある時は選手、ある時は審査員になって見ると何をどのように審査されているか、お互いに理解できると思います。設営・撤収は回数をこなすことが上達のポイントですが、その際テントの破損にも十分気を付けてください。

5 炊 事（5点）

各チーム暑さ対策や食中毒予防をきちんと行い、創意工夫し、食事メニューがバラエティに富んでいるチームが合った反面、レトルトのみのメニューのチーム、食材を腐らせたチームがありました。食事は、登山活動のエネルギーの源です。今後も、食事メニューに創意工夫を凝らし、登山行動に耐えられるカロリーを摂取するよう心がけてください。

また、バーナーの性能、衛生シート等の意味を理解していないチームも見られました。事前によく学習して練習を積んでください。

【審査内容】

審査開始の合図で、各テントを回って歩き以下の観点で審査しました。

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅡ生活技術5炊事と「確認事例集」5炊事を熟読してください。その後、設営・撤収と同様、チーム内で審査員を2～4名位設け実際に炊事を行い、審査の観点1～10について確認をしてください。また、ある時は選手、ある時は審査員になって見ると、何をどのように審査されているかある程度理解できると思います。回数をこなすことが上達のポイントです。さらに、合宿等で大会に使用するメニューを実際に調理し、登山活動のエネルギーにどうか確認することも大切です。

審査の観点	
1 コンロの適切な使用	7 炊事（衛生）シート有無
2 コンロ台の有無	8 シート上の土上がりの放置
3 手袋の着用	9 テント内の整理整頓
4 コンロ点火中の管理者の不在	10 炊事シート周辺の整理整頓
5 風防の有無	11 調理の工夫
6 同一の台でコンロ2台併用	12 計画書とその日のメニューの一致等

6 気 象 (7点)

<天気図審査 (5点)>

講評 (日本気象予報士会 新潟支部 諸岡雅美)

天気図審査には、平成24年8月4日06時の天気図が使用されました。

この日は日本の東の根室沖に高気圧があり東日本に張り出していました。また 日本の南には西進する台風11号があり南西諸島に向かっていています。華中と華北には台風からかわった熱帯低気圧がありました。

台風が目立った位置にあるために、ついそこに注目しがちになりますが、大会山域にはほとんど影響がなく、太平洋にある高気圧の張り出しと、日本海にできた弱い気圧の谷が判断できるかで天気図のできが左右されることとなりました。

細かい点では、各地の天気の記事方法や、東経〇度〇〇分、北緯〇度〇〇分の分単位の記載、熱帯低気圧の記事方法など基本的な部分が間違っているものも多く見られました。基本をしっかりとおさえた上での記入を心がけてほしいと思います。

審査内容と特に気になった点について記載します。

[審査項目1]各地の天気、船舶からの報告 (1. 6点)

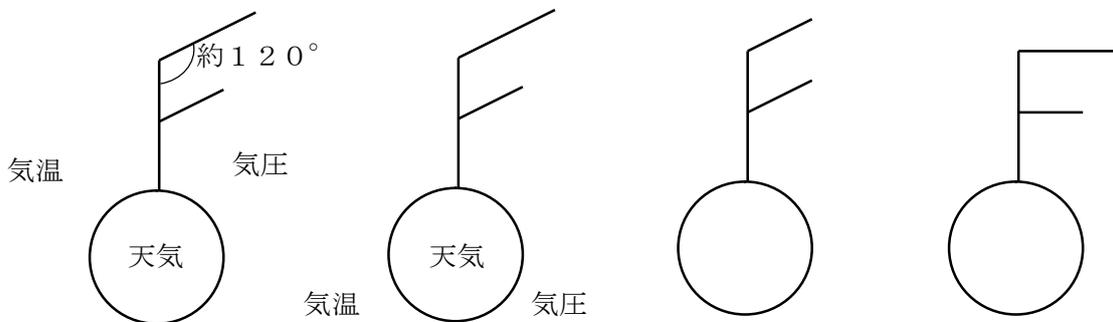
(1) 審査地点 (各0. 2点)

放送された地点のうち以下の7か所の記入について確認した。

- ・石垣島、南大東島、松山、小名浜、チンタオ、ラワーグ
- ・船舶通報 (北緯20度、東経128度)、(40、135)

(2) 審査ポイント

- ・日本式天気記号が正しいかどうか。
- ・気圧、気温の数値と記入位置 (原則として気圧が天気記号の右上、気温は左上に記入)
- ・風向の向き (16方位)、風力が2以上の時の矢ばねの長さが、いちばん外と2本目で異なっているか。風向と矢ばねの角度が風向方向を向いているか (約120°)。



【評価内容】 記入例

誤解答の例

誤解答の例

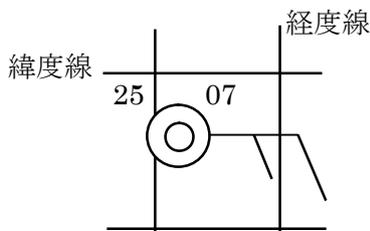
誤解答の例

ア 今回の気象通報では、チンタオで霧、ラワーグで雷、海上でにわか雨の天気記号がありました。ほとんどは正確に記入されていたが、にわか雨の「ニ」が書かれていないものや、書いてある位置

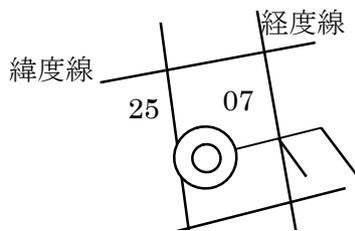
が右上になっているものがありました。

イ 気圧・気温の記入では、気圧は右上に、気温は左上に記入することになっています。一部の回答では、気圧を右下・気温を左下、または気圧を右上・気温を左下の位置にすべての観測点で記入してあるものがありました。他の観測点と重なり書けない場合を除き、記入位置については規定の場所を書くことが必要です。正しい位置に記載がない場合には、すべてで減点となる場合もあることから、正しい記入を行ってください。

ウ 風向は16方位で記入することになっています。正確な方向への記入に心がけてください。特に用紙の左右は緯度経度線が傾いていることから、その緯度経度の線を基準に方向を記載することになります。



東の風 用紙の中央付近



東の風 用紙の右付近

エ ワークは天気図用紙では ○ が記載されていない点で ・ となっている地点でした。この場合は ・ の真上に ○ を書いて天気を記入します。ラワークと間違えてバスコに記入した例や、 ・ から離れた場所に ○ を書いて記入した例がありました。

[審査項目2] 放送等圧線 (0.8点)

(3) 審査対象とした放送された等圧線 (各0.4点)

1004 hPa、1016 hPa

(4) 審査ポイント

- ・ 1004 hPa は (北緯26度、東経142度) (28、127) (36、109) の3点を通過しているか。
- ・ 1016 hPa は (北緯30度、東経155度) (40、140) (50、158) の3点を通過しているか。
- ・ なめらかにかけているか。
- ・ その他の放送等圧線のポイントおよび観測データを考慮して描いているか。
(特に1016 hPaの関東東北付近)。

【評価内容】

ア 回の放送では2本の等圧線が放送されました。放送等圧線はそのポイントをただ結んだだけでは正確な天気図がかけません。周囲の観測地点の気圧や風向、風速、前線も見ながら放送等圧線をひいていく必要があります。

イ 1004 hPa では、10カ所のポイントが放送されました。放送されたポイントの中には用紙の外のポイントもありますが、等圧線は用紙の外であってもつながっている訳ですので、かならず用紙外のポイントもつながることを意識して書かなければいけません。特に用紙の外にあたるフィリピンの東の北緯15度、東経136度を通過しているが、この点を結ばずに等圧線を引いているものがありました。

また、シャンハイは1003 hPaなので、等圧線は観測点の東側を通ることになります。

ウ 1016 hPa は房総半島あたりから東北を縦断、秋田の北のポイント北緯40度東経135度を通り日本海からルドヤナプリスタニ付近を通ります。銚子、大島、前橋、小名浜、秋田の気圧ならびに風向を確認しながら引ければ、なめらかな曲線で関東から東北にぬける部分が引けます。この部分は高気圧の張り出し部分にあたります。

エ 1016 hPa の等圧線は千島の東で停滞前線とクロスします。停滞前線では等圧線は鋭角に曲がりますが、単純に直交しているものや、逆方向に鋭角に曲がっているものがありました。

【審査項目3】等圧線（0. 8点）

（5）審査対象とした等圧線（各0. 2点）

1014 hPa、華北の熱帯低気圧まわりの1006 hPa、台湾付近の1000 hPa、等圧線の全体。

（6）審査ポイント

- ・1014 hPaの等圧線のうち関東から日本海に抜ける部分が、大島、御前崎、相川、日本海の海洋ブイ（北緯40度、東経135度）の気圧を考慮してなめらかにひかれているか。
- ・1006 hPaの等圧線のうち、華北の熱帯低気圧低周辺を中心点と形が適切か。
- ・1000 hPaの等圧線が、台北、恒春、アモイ、香港の気圧を考慮してなめらかにひかれているか。
- ・10 hPaごとの等圧線が太く書かれているか。気圧が書かれているか。
- ・等圧線の過不足がないか。全体的にバランスよく適正になめらかに書かれているか。

【評価内容】

ア 014 hPaの等圧線は、放送等圧線の1016 hPaの低圧側の線となります。大島、御前崎の間をとおり高気圧の張り出し部分をまわりながら、輪島、相川の東側から日本海に抜け、日本海では1015 hPaの海洋ブイの南からウラジオストク付近を通ります。この湾曲は日本海側の弱い気圧の谷にあたります。解答では等圧線が湾曲せずに輪島の西をとおっているもの、相川の東をとおっているが日本海海洋ブイの東をとおっているものが多数ありました。

イ 華北にある熱帯低気圧は1006 hPaですので、この熱帯低気圧のまわりに1006 hPaの等圧線がひかれます。低気圧、高気圧の中心付近の等圧線は、中心のまわりにほぼ同心円状の等圧線となるため、北京や大連を含むような極端に大きな形やいびつな円にはなりません。

ウ 1000 hPaは台北付近から恒春の低圧側を通ります。アモイと香港がともに998 hPaですので、アモイと香港付近には998 hPaの等圧線がひかれ、その外側が1000 hPaとなります。

エ 等圧線は2 hPaごとにひき、10の倍数の等圧線は太くして気圧を記入します。太さの違いが目立たないものや、10の倍数の気圧の数値がすべて抜けているものや一部が抜けているものが目立ちました。また、等圧線が不足しているもの、低気圧や高気圧のまわりによけいな等圧線がかかっているものもありました。

オ 等圧線は前線を横切る場合以外は極端に鋭角的に曲がったりすることはありません。なめらかにつなげることを心がけると、周辺の気圧と風向・風力を確認しながら、等圧線が一部に集中することのないようバランスのよい間隔で描くことが求められます。

【審査項目4】高気圧、低気圧、前線（1. 5点）

（7）審査対象

高気圧、華中の熱帯低気圧、台風11号、前線

（8）審査ポイント

以下の点について適切に書かれているかを確認し、すべて0. 1点ずつの配点とした。

- ・高気圧の中心点の位置。
- ・高気圧の中心気圧の記載。
- ・高気圧の進行方向と速度の記入。
- ・高気圧の表記が適切か。高気圧外周の1020 hPaの等圧線が根室を含んでいるか。
- ・華中の熱帯低気圧の中心点の位置。
- ・華中の熱帯低気圧の中心気圧の記載。
- ・華中の熱帯低気圧の進行方向と速度の記入。
- ・熱帯低気圧の表記が適切か。等圧線が中心点とバランスよく書かれているか。
- ・台風の中心が、度・分までを含めて位置が正しく記載されているか。
- ・台風の中心気圧の記載。
- ・台風の進行方向と速度の記載。
- ・台風の予報円が2つ書かれており、予報円を結ぶ線が書かれているか。
- ・台風の中心の等圧線が適正に書かれているか。

- ・前線の開始の位置。
- ・前線の種類と表記。

【評価内容】

- ア 高気圧の位置や移動速度についてはほとんどが正解でしたが、外周の1020hPaの等圧線が大きいものや極端に小さいものがありました。根室が1021hPaなので、等圧線は根室を含んだ位置にほぼ円形にかかれます。
- イ 熱帯低気圧は、熱低またはTDとなります。Lや熱帯、DTと書かれているものがありました。熱帯低気圧も中心から同心円状となり、中心付近ほど等圧線の間隔は狭くなります。994hPaの等圧線が熱帯低気圧の中心からかたよったものも見受けられました。
- ウ 低気圧や熱帯低気圧、高気圧の中心は・や×印で記入します。×の周りを○で囲ってあるものがありました。これでは等圧線との判断ができなくなります。また破線で囲ってあるものもありましたが、これは4hPaごとに等圧線を引く場合に補助的に2hPaの等圧線を破線で書く場合があるため、これと混同したものだと思われます。
- エ 高気圧、低気圧等の進行方向も、天気記号と同じように緯度経度の線を基準に方向を記入してください。
- オ 台風の位置は、北緯24度55分、東経135度55分にありました。天気図に書かれた位置では、「度」だけの場所で記載したものが多くありました。また、55分は60分率ですので、東経135度55分は、ほとんど136度の線に近い位置(135.92度)になることとなります。55分を100分率として位置を記入したであろうと思われる解答もありました。
- カ 台風の予報進路は12時間後、24時間後の円を記入し、予報円の外周と台風の中心を結びます。一部の解答に予報円の外周と台風の最中心部の等圧線を結ぶ間違った解答もありました。
- キ 台風の中心付近の等圧線は、記載ができる場合にはすべて書いたほうがよいです。今回の台風は992hPaであり、南大東島の999hPaから1000hPaまたは998hPaの等圧線を記入し、中心に近くなるほど等圧線の間隔の狭い同心円に近い円がかけることとなります。中心気圧がいちじるしく低い場合で地図上への記入が困難な場合には、10hPaごとに書く方法もありますが、そうではない場合には、すべての等圧線を表現できるようにしてください。
- ク 今回の天気図では前線は停滞前線が日本のはるか東にあり、わずかに地図上に書ける場所がありました。開始位置はほとんど正解でしたが、停滞前線の記号がまちがっているもの(丸と三角の順番や上下の位置)も目立ちました。

[審査項目5]解析・予報(0.3点)

(9) 審査ポイント

- ・解析の中に解答例の表記のうち、規定の文言が2点記載されているか(各0.1点)
- ・予報の中に解答例の表記のうち、規定の文言が記載されているか(0.1点)

【評価内容】

模範解答

[解析]

千島の南(日本の東海上、又は北海道東海上)に中心を持つ高気圧が、日本付近を覆い、日本海側ではよく晴れており、東日本の太平洋側では曇って、一部雨となっています。

一方台風11号が日本の南海上を西に進んでおりますが、まだ大会山域への影響はない(日本への影響は小さい)。

[予報]

千島の南(日本の東海上、又は北海道東海上)にある高気圧は、日本のはるか東海上に中心を移しますが、引き続き日本付近を覆う見込みです。

一方台風11号の周辺をまわる暖かく湿った空気が西日本の太平洋側に影響を与えはじめる可能性はありますが、日本海側には影響がなく、引き続き、晴れて暑い日が続く見込みです。

- ア 解析および予報については、多く記入されているものもあれば、端的に書かれているもの、時間がないために途中までのものなど、記入の内容や量にもかなりのばらつきがみられまし。記入されたものの中には今回の天気図から読み取ることのできにくい内容や、あかきらかに誤った解析内容

を書いてあるものもありました。このため採点にあたっては模範解答を作成し、その中のキーワードとなる文言が記載されているかのみを採点の基準としました。

イ また、天気図の解析と予報は、予報する場所を明らかにして記入する。この天気図の作成はインターハイの天気図審査であることから、大会山域を場所として予報することが望ましく、出題の段階でも解析と予報は大会山域を指定場所に明確にすることを望みます。

ウ 解析については、天気図から全体の傾向と予報する地域の現状などを解析します。採点のポイントとしては、特に目立つ台風11号の動向とそれによる影響について解析されているかどうかを考慮し、台風による大会山域への影響がない、または少ない旨の記載があった場合には0.1点としました。

エ また、大会山域では晴れていることを解析に記載があれば、0.1点としました。

オ 予報についても、大会山域を含む場所が晴れることの記載があれば、0.1点としました。

【その他記載内容について気になった点】

その他記載内容について気になった点では、左上の日時の記載が間違っているものがあり、18時と記載してあるものもありました。今回は得点・減点の対象にしていないが、天気図の記載では、いつの天気図かが最も重要なことから、記入する者は間違いのない記載をしてほしいし、今後の採点の対象になってもよい部分でしょう。

低気圧は黒または赤、高気圧は黒または青で記入します。前線も赤と青の色または記号で記入することになっています。今回の解答の中に、オレンジ色と青の蛍光ペンで記載されているものがありました。また、等圧線が極端にうすい色で書かれているものや、10hPaの線がマジックで書かれ、全体的にバランスの悪い天気図もありました。天気記号の記載のペンも細かい文字を書くためにかなり細いペンで記入されていたために非常に見づらいものもありました。

ラジオ天気図は、通信機器がラジオしかない山中で天気概況や今後の天気を知る上で非常に重要なものです。このために山岳競技の中でも審査項目となっており、高い配点になっているものだと思います。雨にぬれてもにじまない筆記具での記載なども含め、書いた本人以外でも誰がみても見やすい天気図が書けるよう、精進していただきたいと思います。

<気象課題テスト（2点）>

登山のための技能を総合的に競うインターハイで、気象知識のテストを行う意義は何でしょうか。実際の登山を想定してみてください。事前に天気図を見て気象の傾向をつかみ、また山に入っては雲の観察などから観天望気をし、それらをもとに、場合によっては計画変更も考えることができる、そのことこそが、気象の知識を登山に役立てることにほかならないのです。パーティーを代表して、そのような技能を持ち合わせているかを試すこと、これがこのテストの意義だと考えてください。テキストの丸暗記だけでは、実地では何の役にも立ちません。天気図を見て、風がどう吹くかを読み取ることは、基本中の基本です。また、空にある実際の雲が何という雲なのかがわからなければ、テキストの「雲の種類と観天望気」に書かれていることも、実地では役立てることができません。冬型の気圧配置の天気図を選ぶ問題の正答率が低いことにも驚きました。冬型の天気図そのものはテキストに載っていませんが、「シベリア気団」の説明の中に「冬型の気圧配置の時は…」と触られています。ここを読むとき、冬型が何かもわからず、そのことに抵抗もなく読んでいたら問題です。気象の判断を誤ることによって命を落とす人もいます。確かな知識、使える知識を身につけるよう心がけてください。

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅢ気象と「確認事例集」6気象、「統一学習資料登山と気象知識」Ⅱ地上天気図の書き方を熟読しマスターしてください。併せて審査の講評、審査の考え方を熟読してください。また、天気図を書き込んでください。毎日1回を目標に書いたものは、理科の地学担当の先生や天気図に詳しい方や気象台の担当者に見てもらい指導を受けてください。それが、上達のポイントです。

7 自然観察（8点）

読図については、地図を読む力があれば下見無しでも正解できるポイントを出題しましたが、A隊では満点が16チーム、B隊では3チームとA隊とB隊の正解の差が大きかったです。しっかり地図を読む力をつけてください。また、標識記号を誤って書いたり、登山道と直行する線で示されていないものもありました。指示に従って記入してください。安全に山をより楽しむために、登る山についての地形等の知識を事前に把握し、より実りある山行を目指してください。

【審査内容】

（1）課題テスト（4点）

予報1号のあらかじめ指定した範囲から出題しましたが、今回は試験時間を20分、地名の読みを除いてすべて記号選択にしましたが満点がA隊で5チームB隊がなしでした。平均点としては概ね良好でしたが、B隊の学習不足が目立ちました。しっかりと学習を積んで欲しいです。また、「大会地図」に記載されている主な事項、および、国土地理院発行の1/25000地形図を活用する上で必要となる基礎的な知識をしっかりと身につけてください。

（別掲）

（2）読図（4点）

A隊は満点が16チームと素晴らしい正答率でした。B隊は3チームと地図を読む力が不足しています。しっかり地図を読む力をつけてください。日頃から地図を読むことが大切です。

（隊各0.4点×10問）

（地点と正解については略）

【One Point Advice】

予報1号と「審査からの連絡（重要）」試験範囲についてしっかりと学習を積んで確認してください。過去の問題等で傾向と対策を練り、チーム内で互いに問題を作成し解くのもひとつの方法だと思います。また、地理の教科書や参考書等を用いて国土地理院発行の1/25000地形図を活用する上で必要となる基礎的な知識をしっかりと身につけてください。それが読図にもつながります。特に読図に関しては、地図を読む習慣をつけ現地に実際に、入らなくてもどのような地形になっているか読めるようになってください。さらに自分の地域の山城の地図を読み、現地と比較して見るのもひとつの方法だと思います。あきらめずに繰り返すことが大切です。

8 計画、記録（10点）

計画書については審査からの連絡において「登山部報第55号」のp84、「審査基準」のⅢ.知識、8.計画・記録の「審査項目」の欄にある項目順となるように作成するよう指示しました。指示に従い全体としては見やすくよくできており、満点はA隊で24チーム、B隊で19チームと大変良好でした。また、B隊の計画書ですが手書きでイラストが入ったり、山に行くのが楽しくなるような独創的な元気のでのる計画書もありました。一部ですがいまだに必要な以上の項目を記載し、膨大な内容の計画書も見られました。「審査基準」に基づき必要でない項目は記載せず、シンプルなものを作成するように心がけてください。断面図に関しては、完成したら再度見直し、顕著な場所は確認してください。

今回、計画書作成に当たっては、「審査からの連絡（重要）」でも、各参加チームごと自作するように指示していましたが、男女出場同一校で概念図、断面図、日程等において共有の項目が見られました。指示に従って各チーム毎ですべて自作してください。

記録については審査がスムーズにいきました。満点はA隊で19チーム、B隊で20チームと「審査基準」「審査確認事例」に従って、「主要地点」、「主要ピーク」をおさえ記録されていました。その中でも記録を工夫しているチームもあり大変評価できました。また、防水対策をするために、記録書に合わせた防止カバーを作成してきているチームもありました。逆に、記入の規則性が審査員の理解を超えている場合もありました。初心に戻って「審査基準」「審査確認事例」を再度熟読し、休憩時間の一部の時間を利用して記載できるようにしてください。

【審査内容】

計画書（6点満点：0.5点×12問）

- (1) メンバー表 (0.5 点)
 - ア メンバーの保護者名及び連絡先の記載
- (2) 日程表 (各 0.5 点)
 - イ ドラゴンドラ山頂駅及び山麓駅の記載
 - ウ A隊三国峠コース林道出会、B隊三国峠コース三国峠における大休止の記載
 - エ 荒天対策の記載
- (3) 概念図 (各 0.5 点)
 - オ 松手山～平標山間の尾根の記載
 - カ 三国山の記載 (登山コースからはずれているか)
 - キ かぐらスキー場第1高速リフトの記載 (記名または名称)
- (4) 断面図 (各 0.5 点)
 - ク ドラゴンドラ山頂駅～苗場プリンスホテル幕営地間が正しく記載されているか
 - ケ 神楽ヶ峰～苗場山頂～神楽ヶ峰間の地形が正しく記載されているか
- (5) 装備表 (各 0.5 点)
 - コ 修理用具の重量の記載
- (6) 食糧計画 (0.5 点)
 - サ 予備食のカロリーの記載
- (7) 医薬品リスト (0.5 点)
 - シ 湿布薬の所持量の記載

特定地点の、[通過時間・到着時間・出発時間・体調・天候・植生・指示]、コース状況、講話の内容・時間・事前記述の有無等からA隊・B隊とも10項目を審査しました。

[A隊] (4点満点：0.4点×10問)

- (1) 8月 8日 (水) 第2日目
 - ア 鉄塔 (台地) の標高の記載
 - イ 松手山の分岐の記載
 - ウ 一ノ肩の通過時刻の記載
 - エ 林道出会でのメンバーの体調の記載
- (2) 8月 9日 (木) 第3日目
 - ア 和田小屋通過時刻の記載
 - イ 苗場山頂の標高の記載
 - ウ 復路での雷清水の記載
 - エ たしろステーション (ドラゴンドラ山頂駅) 到達時のメンバーの体調の記載
- (3) 8月10日 (金) 第4日目
 - ア 御神水の通過時刻の記載
 - イ 三国峠の天候の記載

[B隊] (4点満点：0.4点×10問)

- (1) 8月 8日 (水) 第2日目
 - ア 幕営地」の天候 (出発時) の記載
 - イ 中ノ芝周辺植生 (高山植物名の記載、キンコウカなど) の記載
 - ウ 神楽ヶ峰 (往路) の通過時刻の記載
 - エ 苗場山山頂の記載
 - オ 大湿地から田代スキー場リフト降り場までのコース状況 (滑りやすい、急な下り坂など) の記載
- (2) 8月 9日 (木) 第3日目
 - ア 松手山の通過時刻の記載
 - イ 平標山の標高の記載

- ウ 平標山から山の家までのコース概況の記載（木製階段に関する記載）
- エ 林道出会でのメンバーの体調の記載
- (3) 8月10日（金）第4日目
 - ア 毛無山の天候の記載

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅢ知識 8計画・記録と「確認事例集」8計画・記録を熟読し作成の仕方、記録の取り方をマスターし理解してください。併せて過去5年位の報告書、部報からどのような項目を審査しているか調べて見るのもひとつの参考になると思います。また、計画書・記録書における「主要地点」、「主要ピーク」とは、予報1号の「概念図」「コース案内」「行動予定表」および大会地図に記載されている地点であることを再度確認してください。

9 救 急（5点）

医薬品類の携行は大変良好でしたが、一部のチームで有効期限が不明確なもの、保存状態の悪いものが見られました。さらに、メンバー全員が効能・使用法についてもっと理解してください。

課題テストについては、満点がA隊13チーム、B隊10チームと概ね良好で学習のあとが見られました。ただし、課題テストのためではなく、日ごろから救急法について学習を積み重ねてください。また、救急処置法の各種講習会に積極的に参加し、実技面でも力をつけてください。

【審査内容】

- (1) 医薬品（1点×3品目）

A 隊	体温計（切れていない）、消毒薬（有効期限内）、三角巾
B 隊	体温計（切れていない）、消毒薬（有効期限内）、三角巾

- (2) 課題テスト（2点）

あらかじめ指定されたテキストの範囲から出題しました。（別掲）

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅢ知識 9救急と「確認事例集」9救急を熟読しマスターしてください。併せて過去5年位の報告書、部報からどのような医薬品を審査しているのか調べて見るのもひとつの方法だと思います。

課題テストに関しては、「統一学習資料 登山と救急知識」を熟読しマスターし、チーム内で問題を作成しお互いに解くのもひとつの方法だと思います。併せて過去5年位の報告書、部報からどのような応急手当の問題が出題されているか調べて見るのもひとつの参考になると思います。また、救急処置法の各種講習会に積極的に参加し、実技面でも力をつけることが安全登山につながります。

10 マナー・パーティーシップ（5点）

指示違反、起床時間・消灯時間等を守らないチームも多少見受けられました。集団行動の中では、指示を聞き漏らしたり時間を守らないと他に迷惑がかかります。そのことを十分理解し行動してください。

また、各都道府県の代表選手として、自然を愛し保護する岳人としての自覚を持ち、大会を支えていただいている方々に感謝の気持ちを持って行動していました。このことは大いに評価できることです。

【審査内容】

指示違反、起床時間、消灯時間、集合時間、行動中の私語等について減点しました。

【One Point Advice】

「審査基準と指導目標」のⅣ態度 10 マナー・パーティーシップ・自然保護と「確認事例集」10 マナー・パーティーシップ・自然保護熟読し理解してマスターしてください。特に、起床時間、消灯時間、集合時間を守ることは我々が社会生活を営む上での基礎・基本です。

隊 班 都道府県名

学校名

模範解答

解析・予報

【解析】

千島の南（日本の東海上、又は北海道東海上）に中心を持つ高気圧が、日本付近を覆い、日本海側ではよく晴れており、東日本の太平洋側では曇って、一部雨となっています。

一方台風11号が日本の南海上を西に進んでおりますが、まだ大会山域への影響はない（日本への影響は小さい）。

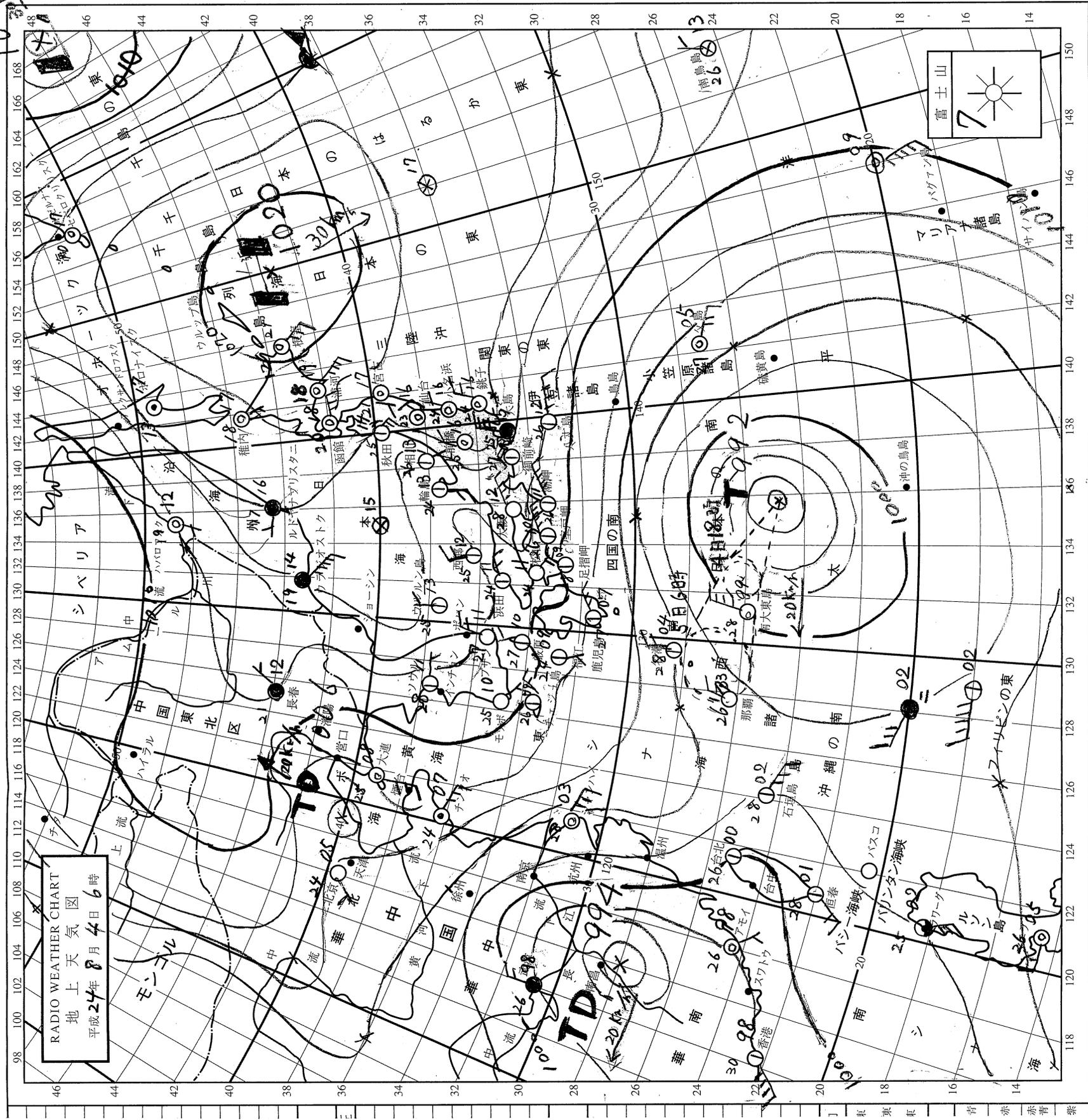
【予報】

千島の南（日本の東海上、又は北海道東海上）にある高気圧は、日本のはるか東海上に中心を移しますが、引き続き日本付近を覆う見込みです。

一方台風11号の周辺をまわる暖かく湿った空気が西日本の太平洋側に影響を与えはじめる可能性があります。ありますが、日本海側には影響がなく、引き続き、晴れて暑い日が続く見込みです。

一メモー

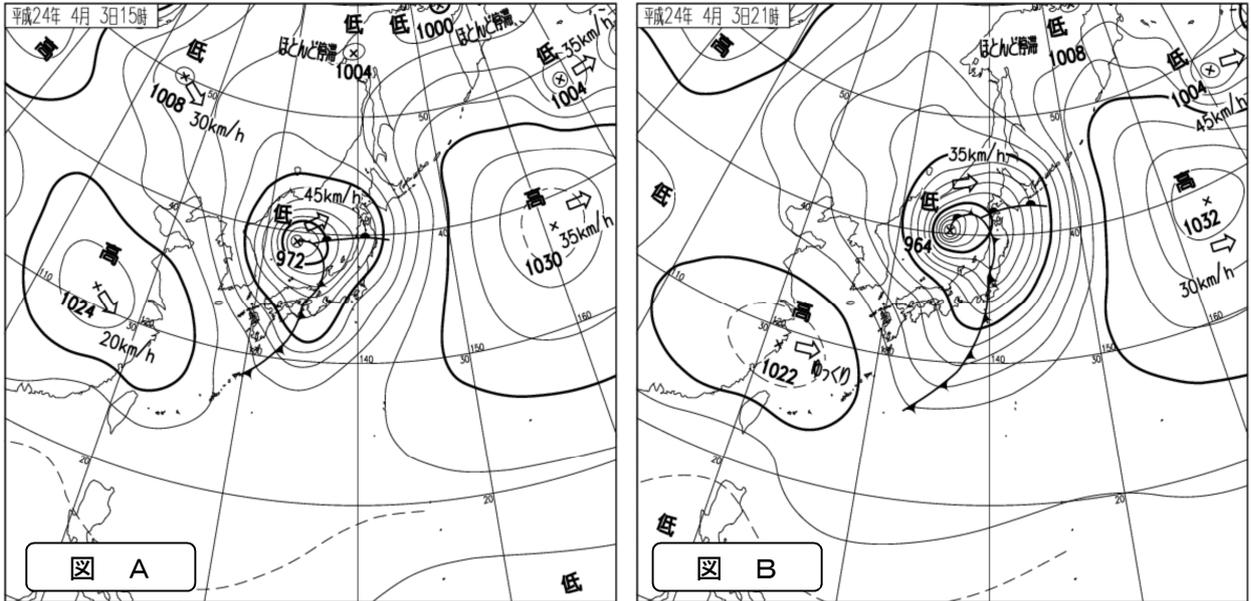
全国高校総体・登山大会 天気図用紙



記入者氏名

気象課題テスト（平成 24 年度全国高校総体）解答

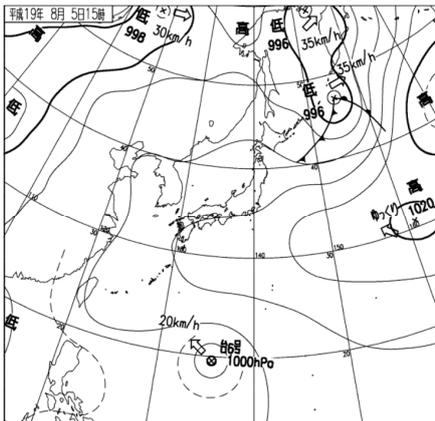
- 1 下の天気図A, Bは今年4月3日、「爆弾低気圧」と称される日本海で急速に発達した低気圧で、全国的に強風が吹き荒れたときのものである。これらについて説明した文章の〔 〕内において、最も適切であると思われるものの記号を選び、その答を解答欄に記入せよ。 (0.1点×9)



図Aから図Bの間に大会山城（北緯37度・東経139度付近とする）を{①_ア温暖・_イ寒冷・_ウ停滞・_エ閉塞}前線が通過した。前線通過に伴って雨が降ったが、一般にこの前線による降雨は{②_ア巻雲・_イ乱層雲・_ウ積乱雲}によるもので、また6時間で前線が約400km東進していることから、この前線の標準的な雨域の幅を根拠に計算すれば、降雨が継続した時間は約{③_ア1・_イ4・_ウ7}時間であったと考えられる。天気図から推測される大会山城付近の風向は、図Aでは{④_ア北寄り・_イ東寄り・_ウ南寄り・_エ西寄り}であったが、図Bの時点では{⑤_ア北寄り・_イ東寄り・_ウ南寄り・_エ西寄り}に変わっている。2つの図のうち、大会山城でより強い風が吹いていると思われるのは{⑥_ア図A・_イ図B}のほうである。また、{⑦_ア図A・_イ図B}のほうでは気温が上昇し、越後湯沢ではこの時期としては珍しく、約15℃にまで達した。しかしこの頃、最大で25m/秒の風が吹いており、リンケの式から導くと、そのときの体感温度は約{⑧_ア-20・_イ-10・_ウ-5・_エ0・_オ5}℃ということになる。なお、この日本海低気圧は中心付近に{⑨_ア温暖・_イ寒冷・_ウ停滞・_エ閉塞}前線を伴っていることから、これから衰弱に向かうと考えられる。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
イ	ウ	ア	ウ	エ	ア	ア	ウ	エ

- 2 次の天気図は平成 19 年8月5日 15 時のものである。これについての文章の〔 〕内において、最も適切な語の記号を選び、その答を解答欄に記入せよ。 (0.1点×4)



この天気図のように{①_アオホーツク海・_イシベリア・_ウ赤道・_エ小笠原}気団が優勢となり、高気圧が広く日本を覆うと蒸し暑く晴れた日が続く。午後になると{②_ア冷やされた・_イ暖められた}空気が尾根に向かって{③_ア上昇・_イ下降}し、新潟・群馬、新潟・長野県境の山の上空に局地的な小さな低気圧を発生させる。小さな低気圧は通称かみなり雲とも言われる{④_ア層積雲・_イ乱層雲・_ウ積乱雲}を形成し、夕立となって雨を降らせることがある。

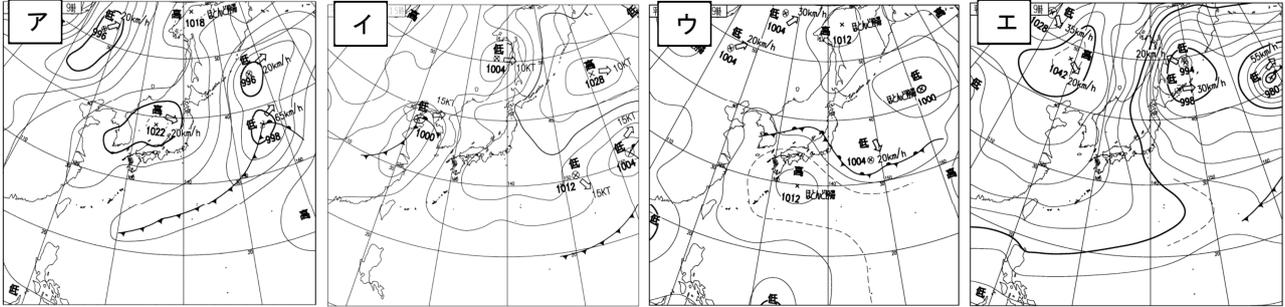
①	②	③	④
エ	イ	ア	ウ

3 次の問いに答えよ。

(0.1 点 × 4)

新潟県は日本有数の豪雪地帯として有名だが、この原因となるのは{①_アオホーツク海・_イシベリア・_ウ赤道・_エ小笠原}気団である。もともとは乾燥した気団だが、比較的温度的に{②_ア高い・_イ低い}海上を通ってくる際に水蒸気の補給を受けて雲ができ、その気流が日本列島で山脈に当たって{③_ア上昇・_イ下降}することで雲が発達して、多量の雪を降らせる。

- (1) { ① }～{ ③ }において、それぞれ正しいものの記号を選び、解答欄に記入せよ。
 (2) 冬型の気圧配置の天気図は、下のア～エのうちのどれか。



(1)			(2)
①	②	③	
イ	ア	ア	エ

4 次の写真と説明をもとに雲の名称を語群から選び、記号で答えよ。

(0.1 点 × 3)

<p>(1)</p> <p>雲底は平らだが、上方にもくもくと盛り上がった雲である。</p>	<p>(2)</p> <p>中層で小さな雲が群れている。雲底が灰色がかっている。</p>	<p>(3)</p> <p>太陽の周りに日暈とよばれる輪ができる。</p>
---	--	---------------------------------------

【語群】

ア.層雲 イ.高層雲 ウ.巻層雲 エ.巻雲 オ.巻積雲 カ.高積雲 キ.積雲 ク.積乱雲

(1)	(2)	(3)
キ	カ	ウ

隊	班	都道府県名	学 校 名	得点 (2 点満点)

気象課題テスト (平成24年度全国高校総体)

救急課題テスト(平成24年度全国高校総体) 解答

1 次の文章の空欄に最も適切であると思われる語を下記の語群より選び、記号で答えよ。

(0.1点×10)

登山者の滑落に遭遇した。顔面の右半分に傷を負い、骨折が疑われたが、意識はあった。そこでまず(①)の確認をしたところ、弱く不十分であると思われたので(②)をおこなった。そののち再び(①)の確認をしたが、弱いながらも確認できたので回復体位をとらせることにした。仰向けの状態から(③)と腰に手をかけ、骨折している部位を考慮して(④)側が上になるように、静かに横向きにした。(⑤)側になっている右手を顔の下に入れ、頭を(⑥)、また倒れないように安定させるため、(⑤)側になっている右足を約90度曲げて身体の前に出した。しかし(①)がだんだん弱まり、危険であると感じられたので仰向けに戻して気道を確保し、心肺蘇生を行うことにした。心臓マッサージ(⑦)回に対して人工呼吸2回の割合で行うのが基本だが、顔面の損傷と出血で口対口の人工呼吸がためらわれた。このような場合(⑧)。

傷病者に対する応急処置の基本はRICEである。Rは(⑨)、Eは(⑩)を意味する。

＜語群＞

ア：呼吸 イ：脈 ウ：身体の動き エ：人工呼吸 オ：心臓マッサージ
 カ：骨折部の処置 キ：気道確保 ク：頭 ケ：肩 コ：右
 サ：左 シ：上 ス：下 セ：前に倒し ソ：後ろに反らし
 タ：15 チ：20 ツ：30 テ：50 ト：人工呼吸を省略してはならない
 ナ：人工呼吸を省略してもよい ニ：止血 ヌ：安静 ネ：保温 ノ：冷却
 ハ：挙上 ヒ：圧迫

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
ア	キ	ケ	コ	シ	ソ	ツ	ナ	ヌ	ハ

小計

2 次の文章の空欄(①)～(⑧)に最も適切であると思われる語を下記の語群より選び、記号で答えよ。また、⑨、⑩の下線部に関して正しい場合は○を、誤りがある場合は×を記入せよ。(0.1点×10)

汗や呼吸、排尿などで体重1kgあたり1時間で約(①)mlの水分が失われるという。体重の(②)%以上の水分を失うと運動機能、血圧の低下、心拍数が(③)などの症状が現れ始め、さらに脱水すると熱中症の危険性が高くなる。喉の渇きに任せて飲むだけでは平均で必要量の約(④)%しか飲まないのが意識的に飲むようにするのが良い。

熱中症は、大量の発汗に対して水分のみを補給したことにより生じる(⑤)、水分の補給が不十分で脱水を生じた(⑥)、水と電解質の失調にとどまらず体温調節機能が破綻し、全身臓器の発熱障害が生じた(⑦)とに分類される。登山の場合、症状として把握されたときには重篤な症状に刻々と移行することが多く、とにかく体温を下げること、(⑧)を含む水分を摂取させることを最優先に考える。具体的にはまず日陰、風通しの良い場所に移動させ、⑨仰向けに寝かせて頭を足よりも20～30cmほど高くする。衣服をゆるめ、熱を放散させる。⑩(⑧)を含む水分を少しずつ飲ませる。嘔吐や意識混濁の場合は飲ませない。全身冷却をする場合は心臓への負担を減らすため細い血管を水や濡れタオルなどで冷やし、団扇などで扇ぐと良い。その上で一刻も早い救助を要請する。

＜語群＞ 同じ語を重複して用いてはならない

ア：5 イ：10 ウ：多くなる エ：少なくなる オ：50
 カ：30 キ：2 ク：熱けいれん ケ：熱疲労 コ：熱射病
 サ：熱ショック シ：塩分 ス：ビタミン セ：糖分 ソ：鉄分

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
ア	キ	ウ	オ	ク	ケ	コ	シ	×	×

小計

隊	班	都道府県名	学 校 名	得点 (2点満点)

救急課題テスト(平成24年度全国高校総体)

自然観察課題テスト（平成24年度全国高校総体）解答

1 次の文中の（1）～（7）に適する語句を下の語群から選び、記号で答えよ。（0.1点×7）

「2012北信越かがやき総体」第56回登山大会は、新潟県（1）町で開催される。本大会の山城は上信越高原（2）公園に属し、大会コースである苗場山、平標山、三国峠は、おおよそ直径が（3）kmに入る、コンパクトな大会運営になっている。

新潟県の県木は（4）、最高峰は（5）である。新潟県の山の森林限界はほぼ（6）m以上であり、それを超えると見事な大草原が展開し、苗場山の頂上付近に見られるような（7）がどこどこ現れる。

語 群						
ア:苗場	イ:湯沢	ウ:越後	エ:国定	オ:国立	カ:自然	キ:公立
ク:5	ケ:12	コ:20	サ:オオシラビソ	シ:ユキツバキ		
ス:ヤナギラン	セ:小蓮華山	ソ:火打山	タ:飯豊山	チ:巻機山		
ツ:1800	テ:2200	ト:2000	ナ:カヤト原	ニ:高層湿原	ヌ:砂礫地	

(1)	イ	(2)	オ	(3)	ケ	(4)	シ	(5)	セ	(6)	ツ	(7)	ニ
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

2 苗場山コースについて、次の問いに答えよ。

(0.1点×21)

問1 次の文中の（1）～（15）に入る語句を下の語群から選び、記号で答えよ。

苗場山コースは、祓川駐車場から登る。はじめ、かぐらスキー場の中の道路を歩き、和田小屋から登山道に入る。ここから、かぐら第1高速リフト降り場までは、（1）行動となり、その先からは（2）行動となる。

次にキンコウカやワタスゲ、写真①の（3）などが見られる下ノ芝に着く。その先の中ノ芝では、写真②の（4）やワタスゲの群生などが見られる。上ノ芝を経て、標高（5）mの神楽ヶ峰に到着する。

神楽ヶ峰からはいったん最低鞍部まで下る。針葉樹林を抜け（6）と呼ばれる坂を下っていく。前方には苗場山が大きく見えだす。鞍部に下る前に（7）と呼ばれる水場がある。鞍部からは、両側から沢が迫った稜線を緩く登る。左の（8）側は緩やかだが、右の（9）は険しく切れ落ちているので足場には注意したい。

やがて傾斜は急になる。（10）と呼ばれる最後の急登を上ると不意に視界が開けて笹の平が現れ、標高（11）mの苗場山の山頂に着く。広大な山頂付近には、写真③の（12）、イワカガミなどの花々が見られる。

下山は神楽ヶ峰までは来たコースを戻り、田代スキー場に至る。田代スキー場から苗場プリンス幕営地までの移動は全長（13）mのドラゴンドラを使う。2万5千分の1の地形図では約（14）cmとなる。ちょうど中間地点あたりで（15）の上空を通過する。



写真①



写真②

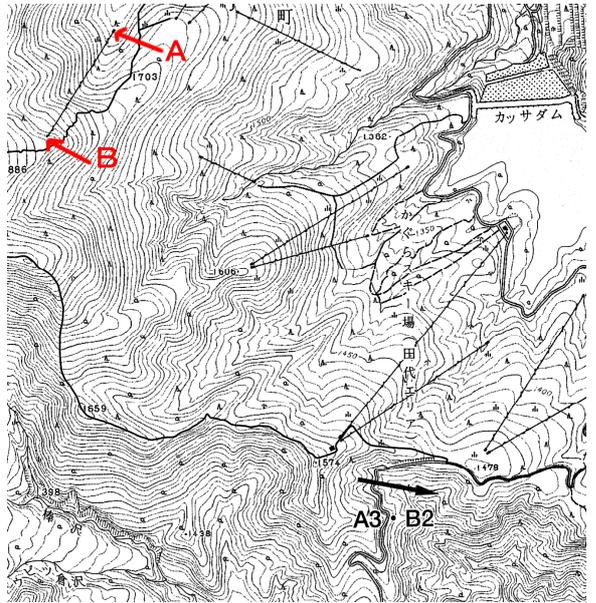
語 群					
ア:パーティー	イ:チーム	ウ:班	エ:シモツケソウ	オ:チングルマ	
カ:ニッコウキスゲ	キ:ワケイヨウ	ク:2029.6	ケ:2145.3	コ:2461.8	
サ:棒沢	シ:硫黄沢	ス:河内沢	セ:雲尾坂	ソ:富士見坂	
タ:田代坂	チ:雷清水	ツ:錫杖清水	テ:5841	ト:5481	
ナ:5148	ニ:22	ヌ:14	ネ:5.5	ノ:清津川	ハ:浅貝川
ヒ:カッサ川					



写真③

(1)	イ	(2)	ウ	(3)	キ	(4)	カ	(5)	ク	(6)	ソ	(7)	チ	(8)	サ
(9)	シ	(10)	セ	(11)	ケ	(12)	オ	(13)	ト	(14)	ニ	(15)	ノ		

問 2 右の図は苗場山コースの一部を含む大会地図の一部分である。以下の設問に答えよ。



- (1) カッサ湖（カッサダム）の湖面の標高は次のどれに近い。記号で答えよ。
 a. 1200 m b. 1300 m c. 1400 m d. 1500 m
- (2) 図のAとBはどちらが標高が高いか。記号で答えよ。
- (3) 図のAとBの高度差は次のどれに近い。記号で答えよ
 a. 150 m b. 200 m c. 250 m d. 400 m
- (4) 次の文中の{ }内で、それぞれ正しいものを選び、記号で答えよ。
 図中の「・1659」「・1574」「・1478」は{A. ア三角点・イ水準点・ウ標高点}で、それらをつなぐ尾根にはほぼ沿ってコースが設定されている。この尾根をはさんで北側と南側では等高線の間隔が違っており、傾斜が尾根の{B. ア北側では緩く南側では急に・イ南側では緩く北側では急に}なっていることを表している。このような尾根を{C. ア馬の背・イ逆層・ウ吊り尾根・エ非対称山稜・オ二重山稜}という。

(1)	b	(2)	B	(3)	b	(4)	A	ウ	B	ア	C	エ
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	---	---	---	---

3 次の文は平標山コースについてのコース案内の一部を改変したものである。(1)～(3)にそれを表す登山用語を下の語群から選んで答えよ。(0.1点×3)

平標山の家からは平元新道の下りとなる。下り始めは(1)岩石が崩壊しがららした場所のため、(2)不安定で転がりやすい石が多く、慎重に歩を進めたい。樹林帯をジグザグに下っていく。小さな涸れ沢を渡ると、谷の(3)上流から下流をみて右側の岸を下っていく。カラマツが多く見られるようになると傾斜も緩やかになり、やがて水場を過ぎるとすぐに広い林道に出る。

語 群			
ア:ゴルジュ	イ:落石	ウ:ザレ場	エ:ガレ
オ:浮き石	カ:ゴーロ	キ:右岸	ク:左岸

(1)	エ	(2)	オ	(3)	キ
-----	---	-----	---	-----	---

4 次の地名の読みひらがなで答えよ。(0.1点×4)

- (1) 祓川 (2) 河内沢 (3) 平標山 (4) 二居

(1)	はらいがわ	(2)	こうちざわ	(3)	たいらっぴょうやま	(4)	ふたい
-----	-------	-----	-------	-----	-----------	-----	-----

5 次の文章が正しければ○を、間違っていれば×で答えよ。(0.1点×5)

- (1) 平標山コースで、高圧送電線の下を通るのは2回である。
 (2) 三角山山頂には一等三角点がある。
 (3) 三国峠には、「三国権現神社」がある。
 (4) 平標山から東へと伸びる登山道は大源太山への道である。
 (5) 苗場スキー場は年間130万人が来場する人気の高いスキー場である。

(1)	○	(2)	×	(3)	×	(4)	×	(5)	○
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

隊	班	都道府県名	学 校 名	得点(4点満点)